



志木ロータリークラブ

2020-21年度 国際ロータリー 会長 ホルガー・クナーク 「ロータリーは機会を開く」
 2020-21年度 第2570地区 ガバナー 相原 茂吉 「友達をつくろう」
 2020-21年度 志木ロータリークラブ 会長 高橋健一郎 「つながろう！」

第2320回 移動例会 2021-1-13



- ◎司会 小林 八郎 副会長
- ◎点鐘 高橋健一郎 会長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ゲスト 吉田 靖夫様(元志木 RC 会員)
- ◎ビジター ガバナー 相原茂吉様(川越RC)
ガバナー補佐 勝瀬義仁様
(朝霞キャロットRC)

「会長挨拶」 会長 高橋健一郎

皆様、こんにちは。個人的に喪中でございますので、おめでとうは控えさせていただきますが、今年も宜しくお願い致します。

さて、年初のいやがらせメールに令和3年「辛丑(かのとうし)」の干支のお話がありま

したので、そのままパくらせて頂き、ご紹介致します。

まず牛は、紀元前から日本列島にいたとされ、平安時代には貴族が乗る「牛車」、鎌倉時代頃からの「牛馬耕」(ぎゅうばこう)など、さまざまな場面で人間の生活を助けてくれています。

さて、「丑」は十二支の中で鼠の次の2番目ですが、なぜでしょうか? 「十二支物語」によると、神様のもとへ早く挨拶に来た12匹の動物へ順番にその年の大将を任せようというお触れに、自分の歩みの遅さを自覚していた牛は前の晩から出発しました。その甲斐あって牛は一番にたどり着いたのですが、牛の背中に乗っていた鼠が飛び降り、先に一番を

とってしまったということです。牛の実直な性格を表しています。

次に「辛(かのと)」の字は、音読みで同音の「新しい」の「新」の字に通じ、草木が枯れた後に、新しい世代が生まれようとする状態を表します。また、「丑」の漢字の意味は「紐」にも通じていて、草木の芽が紐のように伸びていくのを待つ状態を表しているの、力を蓄えながら、来たるべき時代に向け徐々に動き出す年と読み解けそうです。

100年に一度ともいわれます新型コロナ禍を乗り越え、社会経済が復興していくアフターコロナの時代に向けて、牛歩であっても着実に、粘り強く前へ進んでいきたいと存じます。

本日は、1986年(昭和61年)に入会し、残念ながら昨年3月に退会なされました第33代会長・吉田靖夫さんに、皆様もご周知の輝かしいロータリー人生について語って頂きます。

また、昨年7月のガバナー公式訪問では、小人数開催にてご来訪いただきました相原茂吉ガバナーが特別に、再度志木へお越しくださり、卓話をして頂きます。時間がおすことは十分存じておりますが、皆様よろしく願い致します。

「理事会報告」(1/13) 会長 高橋健一郎

1) 2月の例会について

緊急事態宣言を受け、中止とする。

2) その他

岸尾会員より退会届が提出される。慰留の上、かなわなければ名誉会員をお願いする。

3) IMの件 中止にして冊子を作る方向で。

費用は応分の負担を。

※次回理事会は未定。

「幹事報告」 幹事 金剛光裕

1. RI 日本事務局より 3件受信

①1月のロータリーレート 1ドル104円(12月=105円)

②新型コロナウイルス感染拡大防止に向け

た「日本事務局在宅勤務」の知らせ

勤務形態：在宅勤務

期間：2020.1.4(月)～1.29(金)

業務時間：9:30～17:30

連絡方法：電話や一部郵送物による対応が出来ませんので、eメールまたは、FAXでご連絡できます

③職業奉仕月間リソースの案内

2. 地区事務所より 7件受信

①相原ガバナーより新年の挨拶

②緊急事態宣言の発動を受けての願い

③2020年度米山記念奨学委員会研修旅行中止の案内

④福島良治バスターガバナーご逝去の知らせ

⑤青少年交換学生第49期派遣生帰国報告会の模様ビデオ受取

⑥RI第2570地区「ライラ大会・インターアクト年次大会」中止の知らせ

⑦新型コロナ感染についてアンケート願い

3. 富士見RCより第4回会長・幹事会議事録及び収支報告受信

4. 新座RCより第5回会長・幹事会の開催案内受信

日時：1月15日(金) 18:00～

場所：ベルセゾン 4F Takasago

5. 米山記念奨学会より 2件受信

①ハイライトよねやま Vol.249 2020年12月14日発行

②緊急事態宣言が再発令されたことにより職員の安全確保のため在宅勤務とする

期間：1月末まで ※状況により延長あり

6. 比国育英会バギオ基金よりバギオだより Vol.82 2021年1月号受信

7. 志木市福祉部共生社会推進部よりフードバンク事業への食品の提供の願い受信

8. 志木市体育協会より令和3年志木市体育協会賀詞交換会の中止について受信

9. C.P.I.教育文化推進委員会より会費納入の願いとその他資料受信

「今月の誕生日祝」 親睦活動委員長 吉原 正



7日 西浦建貴会員 7日 宮田泰彦会員
27日 古田征也会員 29日 大村相基会員
1日 佐藤美佐子さん（事務局）

「卓 話」

「退会によせて」

元会員 吉田靖夫様



「ガバナー紹介」

第2グループ ガバナー補佐 勝瀬義仁様



「卓 話」

「ガバナー卓話」

第2570地区ガバナー 相原茂吉様(川越RC)



皆様、改めまして、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、いよいよ1月7日緊急事態宣言が発令されました。感染が拡大するにつれ、都心に近い志木 RC の皆様に於かれましては、本当に神経をつかわされることと存じます。

また、経済もいよいよ深刻な状況になってきました。先週も、私が親しくしている業者で大豆や業務用のお米を扱っている問屋が倒産してしまいました。業務用のコメを外食向けに販売している得意先の米屋が倒産した為に、連鎖倒産です。倉庫には行き場のない大量のコメが山積みされていたようです。

私達ロータリアンは職業を基本としております。

本当に一日も早くコロナが収束しますよう祈るばかりでございます。

さて、本日は非常事態にも拘わらず、このように皆様にご挨拶させて頂くお時間を頂戴し、本当にありがとうございます。

勝瀬ガバナー補佐よりできるだけ簡単に！との事でしたので、端折ってお話させて頂きます。

先ず、7月15日のガバナー公式訪問では、金剛幹事の宝幢寺にご案内して頂き、すばらしい襖絵や由緒ある建物を見せて頂き、感激致しました。ありがとうございました。

その時は、①RI会長のテーマ ②相原年度

のテーマ ③サンティエゴの国際大会 ④ロータリーと稲森和男氏、千利休、シェルドンと近江商人の3方よし ⑤コロナ禍における価値観の共有などについてお話致しました。

本日は11月3日に開催された地区大会について、お話したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

昨年11月3日の地区大会。本当にありがとうございました。お陰様で大変すばらしい地区大会が開催出来ました。

思うに今年の11月の半ば過ぎからコロナ感染が再び猛威をふるい始め、もうちょっと遅かったら地区大会の開催は到底許される環境でなかったでしょう。今にしてみると、11月3日は、go to travel など、社会がちょうど活性化の方向に進み始めた頃で、社会環境的にも許される、正にピンポイントの絶妙のタイミングでした。本当に神様に感謝です。

そうは言っても、会場は感染予防には万全を期した形で行いました。貴クラブでも会長・幹事さんをはじめ多くの会員にご出席いただきどうも有難うございました。

地区大会の様子については、月信12月号に詳しく書きましたので、まだ読んでいらっしゃらない方はお読みになってください。

今回、川越RCが主催でしたので、クラブの約40名の大会実行委員の方々が誠心誠意本当に頑張ってくれました。

ロータリアンの方々は各企業の経営者・また大手企業の支店長の方々、いわば地域のリーダーの方々です。にも拘わらず皆さん黒子になって、縁の下の仕事を一生懸命してくれました。

因みに壇上で、マイクを拭いていた女性はNTTの支社長で部下が500人います。また会社の女性はプリンスホテルの支配人、またドアーマンは、埼玉りそなと武銀の川越支店長。音響は川越ケーブルテレビ支社長、勿論地元川越の企業経営者は駐車場や食堂、座席の誘導、運転手、医務室、知事・市長のアテンド、プログラムの作成、会場の設営、衛星放送の手配、感染予防対策などなど多くの役目を担ってくれました。

で、今回地区大会を終えて、感じた事がいくつかございます。まず、地区大会そのものの開催も大切ですが、そこに至るまでのプロセスに大きな意義がありました。実行委員会では何度も打ち合わせを行い、本番前の3日間は、皆さん真剣で仕事どころではなかったと思います。

この過程で実行委員の皆さん達の距離は本当に縮まりました。

95名いる当クラブですと、どうしても例会の時に仲のいい人同士で固まってしまう。例会前後はなかなか懇親を深めるには、あまり時間も無いし、そういった環境も出来づらいのが実情です。その人のキャラにもよりますが、例会に来てあまり人と話さず、昼飯を食べに来るだけの人も見受けられ、本当にもったいないなあと思います。でもコロナ禍の中、地区大会を安全に開催するという目的を共有し、みんなで一緒になって一つの事を成し遂げた事が、一気に距離を縮め、皆さんとの友情を間違いなく深めた気がします。

余談ですが、今から約17~18年前、私は家族で富士登山に行きました。ちょうどお盆の8月13日14日です。小学生の子供2人と家内と一緒にです。5合目まで車で行き後は徒歩で登りました。登山の経験がない私は運動靴とジャージで軽い山登りの気分で行ったのです。家族も同様でした。ところが、そんなに甘いもんじゃありません。富士登山を経験された人にはお判りでしょうが、非常にきつい！それでも8合目までは休み休み何とか行けたのですが、あと2合が本当にきつい。酸素を買ったりしながら、最後の1合。もう目の前に頂上が見えるのですが、そこから先が鎖につかまって登るのですが、本当にきつい。途中で「もうやめようか」と、なんども諦めかけましたが、「せっかくここまで来たから、もうちょっと」と励まし合い、なんとか頂上に到達しました。その時、思わず家族と一緒に手を取り合って、「よくやったね」と感動し喜んだことが昨日の様に思い出されます。この思い出は家族の大切な宝物です。そして途中で一緒に上っていた人達。お互い追

い越し追い越されて、会うたびに「がんばりましょう」とお互いに励まし合いました。

もしも、これがヘリコプターで一気に頂上に降りても大した感動は無かったです。私は地区大会で富士登山を思いだしたのです。

大会終了後、メンバーによる打ち上げは大いに盛り上がりました。実行委員の皆さん朝早くから本当に活躍し、非常に疲れていたと思います、ある人は万歩計が3万歩表したそうです。その打ち上げ会は延々と夜遅くまで続いていたようです。

川越 RC は、コロナ禍に於いて地区内のロータリアンにいい地区大会だったねと満足して頂く事、そして安全に開催する事、を只管目標にして頑張りました。その結果、繰り返しになりますが、今まで他人だった実行委員の方々の距離が一気に縮まり、新たな友情が芽生えたのです。

川越ロータリーに入っていて良かったという会員もいました。さらにお互いの友情が深まったこと。このことこそロータリーの大きな魅力ではないでしょうか。

ホルガークラーク RI 会長のテーマは **Rotary opens Opportunities!** ロータリーは機会を開くであります。

振り返りますと、一昨年の終わりごろ、当地区はガバナーの成り手がなくて本当に困っておりました。パストガバナーから成る指名委員会で次は何としても川越から出せという強い要望がガンガン届き、川越 RC に所属する PG の立原さんもつくづく容易でなかったと思います。

指名委員会では、地区内の何人かの候補者に当たり説得しましたが、クラブが良くても本人がダメ。本人が良くてもクラブがダメ。そして遂に、私の年齢やクラブ会長、ガバナー補佐などを務めた事で、めぐり合わせで、私に順番が回ってきました。「相原、ガバナーをやれ。俺が支援するから大丈夫だ。お前ならできる。」と立原さんから再三再四言われたものの、そもそも私はロータリーそのものにあまり熱心ではありませんし、ガバナーの器には程遠いと思っておりました。そして公式

訪問に行って、つくづく感じましたが、ロータリーは本当に人材の坩堝です。当クラブもそうですが、地区には本当に立派な方々が沢山いらっしゃいます。そういう方々に対して私がガバナーを務める事など、おこがましくてできません。

ガバナーになることなど考えもしませんでした。まさに *far beyond imagination* でした。じゃ、なんで引き受けたのかと申しますと理由は二つあります。

ひとつは、私は先代の相原茂吉の養子です。先代は 1977 年にガバナーを務め、ユーチューブで配信している 25 分の「ガバナー相原茂吉の想い」をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、父は本当にロータリーを心から愛しておりました。まだご覧になっていない方は是非見てください。

会社や相原家の引継ぎは養子としての役目ですが、ガバナーを務める事も養子としての義務感みたいなものであり、一種の親孝行なのかあとと思った次第です。

それから、私自身ロータリーに入ってから様々な恩恵を授かりました。何よりも感謝している事は川越 RC の重鎮である今泉さんの孫の喜章君に娘が嫁いだ事です。ちょうど今泉清詞さんのご長男である今泉博さんが会長・私が幹事の時でした。結婚式では川越 RC の多くの方々に祝福して頂いていただきました。今娘は本当に幸せそうです。なので、私がガバナーをひき受ける事が、川越 RC に対し些かなりとも恩返しになれば、という気持ちでした。

ガバナーになる前、エレクトとして1週間のガバナー研修に行かなければなりません。場所はアメリカ西海岸サンティエゴです。2019年12月の末、プリンスで盛大な壮行会を開いて頂きました。そして、家内と一緒に国際協議会に行きました。

素朴を絵にかいたような私の家内は本当に億劫がっていました。全国の地方のガバナーは皆、それぞれ各地区の名士ぞろいで、奥様方もセレブっぽい人が多いんだろうなあと、戦々恐々として成田に向かったのです。

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

■新座RC (木) 12:30~13:30 ベルセゾン
■富士見RC (金) 12:30~13:30 島田ビル1F

事務局 048-473-7041
事務局 049-251-6596

2320-5◇
志木 RC 会報

で、成田について意外だったのが、全国 34 地区から来たガバナー夫妻たちは、みんな田舎の素朴なおじさんとおばさんでした。

ガバナーは英語もできなくっちゃダメだと思い、直前の一年間大枚はたいて東松山の英会話学校に通ったのですが、同期のガバナーの中で英語が堪能な人は殆どいませんでした。まったくしゃべれない人もいました。自分で言うのもおこがましいのですが、私なんぞ、まだましなほうのような気がしました。で、ロータリーについて詳しいかと言えば、中には非常にモチベーションの高い人もいましたが、皆さんあんまり熱心でない人が多かったような気がします。

皆さんは地方から出て来たので、もしかしたら私達以上に、戦々恐々としていたのかも知れません。お互いに異口同音「頼まれちゃって、どうしようもなく引き受けた」みたいな話をしながら、成田を出発したのです。そんな心理状態の中で、私達の 1 週間のホテル缶詰め研修が始まったのです。連日、講習。昼食。セレモニー。イベントなどなど、ともに時間を過ごすうちに、徐々に皆さん慣れてきて、いろいろな話をするようになりました。分かれて講習を受けていた奥さん同士も同様でした。

7 月のガバナー就任という共通の目標に向かって、同じ場所で同じ講習を受ける。行く前は、本当に億劫で仕方が無かったのですが、始めてみると意外と面白い。ロータリーに対する意見交換。新しい出会い。夜は家内とその日の出来事を話す。同じ立場の夫婦同志、同じテーブルで世界中から来た外人に混じって食事をする。などなど毎日が充実し、次々に価値ある出会いや出来事が生まれてきました。そしてあっという間に苦行だと心配していた 1 週間が過ぎました。

そして終わってみると、全員がロータリーに対して熱い思いを感じるようになっていました。同じ価値観を共有し、同じ目標に向かって、一緒に過ごした事は、新たな強い絆を作ったのです。

帰りのサンティエゴの飛行場での雑談は、

行き成田の雰囲気とは全く違って和気藹々でした。そして成田で別れるときは、握手、握手です。

私は今更のように思います。このことがロータリーの国際協議会の目的だったのです。決して知識を増やす事だけが目的ではありませんでした。

私は今回、地区大会を通じて一番大事な事が、私なりにですが、わかったような気がします。

何のために地区大会をするのか？

その目的はロータリー章典に、次の様に書かれてあります。

- ①ロータリアンが一堂に会する事でロータリーへの関与と理解を深めさせる
- ②RI 会長代理の訪問。RI の最新情報と大会終了後の講評・挨拶
- ③地区案件の討議と投票
前年度の財務報告書の承認
人頭分担金の承認
規定審議会代表委員の選出 規定審議会の制定案の承認 など

- ④地区会員が関心を持つような主題の講演
でも一番の目的、それは、この地区大会を運営、開催する事で、みんなが仲良くなることでもあります。それには参加しなくてはなりません。参加してどうすれば地区大会が成功するか知恵を絞り、そして一緒に行動する事。

正にロータリーの行動指針である **join leaders⇒exchange ideas⇒take action** です。

2014 年に、今まで入りて学び出でて奉仕せよ **enter to learn, go forth to serve** から行動指針はこのように変わりました。 **Join leaders, exchange ideas, take action** です。

みなさんは、リーダーと称される方々ばかりです。会社に戻れば、「長」と名の付くポジションの人達ばかりです。背負っている責任、忙しさなど、そうでない人に比べると各段の相違です。

地区大会では川越 RC のそんな人たちが、黒子になってなんとか地区大会を盛り上げようと頑張ってくれた。

そして、みんなの力が結集し、めでたく成

1月は「職業奉仕月間」です

功裏に終わった。その結果、皆さんの距離が縮まり、友情が芽生えたのです。

いま世の中は、コロナで悲惨な状況になっています。一体いつ終息するのか、まだまだ不透明な部分は否めません。経済の大打撃と共に人々の生活スタイルも大きく変化し、今までの価値観も通用しなくなってきました。

こんな時に、心を許せる仲間がいる事。

仕事関係の友人はどうしても経済的柵が絡んできます。

ロータリーの仲間は柵がなく平等でフラット、そして全員が地域の選ばれた人の集団です。

何度も言いますが、皆さんは幸せ感や達成感はそうでない人に比べると、きっと多いでしょう。しかしながら同時に背負っている責任、悩み、犠牲、心配事などなどそうでない人に比べると間違いなく各段に大きいと思います。

だから価値観が共有できるのです。ロータリアンは価値観の共有です。

学生時代の友人も大切な存在ですが、ある意味、質が違います。

このような価値観を共有できる友達、仲間がいる事。

With コロナで、先が読めない非常に難しい時代に突入していく中、リーダーとして同じような悩みをもちながら、舵取りをしていかなければならない仲間がいる事。

人間一人では決して生きられません。

こういった仲間作りをすることが、ロータリーの真の目的であると、私は確信するのがあります。

ガバナーを拝命して、まだ半年ですが、Gエレクトから始まった2020年の一年間、私は多くの事を学ばせて頂きました。正にロータリーは機会の扉を開いてくれました。

これからロータリーも大きく変化していくでしょう。組織維持の為そうせざるを得ないでしょう。

今 **Shaping Rotary Future** と行って、2030年に向けて大改革の波が押し寄せています。

しかしながら、不変の物、それは何と言っ

ても「友情と奉仕の理念」です。

まだまだ語りつくせませんが、最後に志木RCの一層の発展と、会員の皆様の弥栄を祈念して私のスピーチを終わらせて頂きます。

ありがとうございました。

●出席報告 出席向上副委員長 荻野光一

会員数43名 出席義務者39名 免除者4名

本日出席	本日欠席	本日出席率
37名	5名	88.09%

前々回 MU (2名中0名)	前々回修正出席率	平均出席率
	95.23%	87.86%